

後期後半開始時朝会でのお話（令和4年1月7日）

皆さん、新年、明けましておめでとうございます。年末、年始は、楽しくゆったりと過ごせましたか。13日間の長い冬休みが終わり、先生たちは、元気な皆さんに会えて、とても嬉しく思っています。

年の初め、また、後期後半の初めに当たり、校長先生からお話をします。皆さん、「一年の計は元旦にあり」という言葉を聞いたことがありますか？一年の計画は元旦に立てるとよいという意味で、これは、戦国時代の武将、毛利元就が語ったとされている「一年の計は春にあり、一月の計は朔にあり、一日の計は鶏鳴にあり」という言葉が由来になっているという説があります。

「春」はここでは正月のこと、「朔」は、月初めの日のことです。「鶏鳴」は、鶏の鳴き声のことから一番鶏が鳴く早朝のことです。

毛利元就の言葉は、1年、1月、1日それぞれの最初のときこそが計画を立てるべきときであるということを行ったもので、何事も最初が肝心であるということの意味しています。

物事の初めに計画を立てて物事を行うことの大切さは、一生においても言えることです。

日本人初のメジャーリーガーとして多くの偉業を成し遂げ、引退から2年経った今も、野球界の“レジェンド”と言われ続けるイチロー選手は、小学6年生の時に自分自身の野球人生についての計画を作文に書きました。少し紹介します。

「僕の夢は一流のプロ野球選手になることです。そのためには中学、高校と全国大会に出て活躍しなければなりません。

活躍できるようになるためには練習が必要です。3年生の時から今までは365日中360日は激しい練習をしています。

だから、1週間中で友達と遊べる時間は5、6時間です。そんなに練習をやっているのだから、必ずプロ野球選手になれると思います。

そして、僕が一流選手になって試合に出られるようになったら、お世話になった人に招待券を配って応援してもらうのも夢の一つです。とにかく一番大きな夢は野球選手になることです。」

とても前向きで、具体的な目標です。野球選手になるまでの努力のこと、なっ

てからお世話になった人たちに感謝することまで詳しく書いています。計画は立てても、なかなか思い通りにならず、途中で立ち消えになってしまうこともあります。

しかし、無計画のままに過ごすとなんもしないうちに過ぎてしまい、それが積み重なって何も成し遂げられないとなると残念です。

「一年の計は元旦にあり」

皆さん、一年の初めに是非この一年の、そしてこれからの人生についての計画を立てて、それをしっかり行えるよう、後期後半も前向きに笑顔で元気に過ごしましょう。